



学びと育ちを実感する ふるさと・キャリア教育の実践

～6年総合プロジェクトJを通して～

大館市立城南小学校 教諭 米澤 貴子
教諭 佐々木 大
教諭 福司 登志子

1 はじめに

本校のふるさと・キャリア教育の目標は「自分を見つめ、自己を拓く子どもの育成」である。キャリア教育が目指す4つの力、本校の地理的特色、子どもの実態等をふまえ城南らしいふるさと・キャリア教育はどうあればよいかを考え実践を進めてきた。6年生総合「プロジェクトJ～作ろう未来の大館Ⅰ・Ⅱ～」の実践を紹介する。

2 活動の実際

(1) 「プロジェクトJ～作ろう未来の大館Ⅰ～」(全15時間)の流れ

- ① 6つの分野(環境・自然, 特産物・食, 産業, 歴史・行事, 観光, 大館で活躍している人)に分かれ, 自分たちの住む大館のよさや課題を出し合う。

*友だちの多様な考えに触れることで, 自分の考えを深めたり, 新たな発見をしたりする。

人間関係・社会形成能力の育成

↓

- ② 町おこし企画(大館のすばらしさのアピール, 課題解決のためのアイデア)を他のグループや保護者に向けてプレゼンテーションする。

↓

課題対応能力の育成

- ③ 町おこし企画をプロ(大館市の活性化に取り組んでいる方々)にプレゼンテーションし, アドバイスをもらう。

*自分の考えを資料を使って工夫して伝え, 相手のアドバイスを心得て, 作戦を修正することができる。

人間関係・社会形成能力の育成

- 自分たちのアイデアは実現が難しいものか, あるいは実現可能なものか知るとともに, プロの方々のふるさとへの熱い思いやその人ならではの生き方に触れることができた。夏休みには各自大館にかかわる体験活動や調査などを行った。これらが, 大館のよさを自分たちで伝えたいという思いの高まりにつながった。

(2) 「プロジェクトJ～作ろう未来の大館Ⅱ～」(全25時間)の流れ

- ① 自分たちが学んだ大館のよさを市内外の人たちにCMで伝えるために, 計画を立てる。大館ケーブルテレビさんから, CM作成の手順や留意点, CMがもつ意味などを学ぶ。

*CMづくりという目的をもち, 実現を目指して努力したりふるさと大館へ愛着をもち貢献できるやりがいを感じたりする。

キャリアプランニング能力の育成

↓

- ②自分たちが考えたCMの構想を練り, 必要な準備や演出方法を話し合い, 練習を進める。

撮影は保護者の引率協力を得ながら、ロケ地に行って進める。撮影後は、秋田職業能力開発短期大学の先生や学生さんの協力を得て、編集作業をする。

*自分の得意なことを生かしてCM撮影の役割を決めたり、伝えたいテーマに合わせて写真や動画の組み合わせを考えたりする。

自己理解・自己管理能力の育成

↓

③ 10月のきりたんぽまつりで上映会を実施。見ていただいた方にパンフレットを渡しなが、大館のよさを紹介する。

*お客さんと触れ合いながら、大館のよさを自分の言葉で伝える。

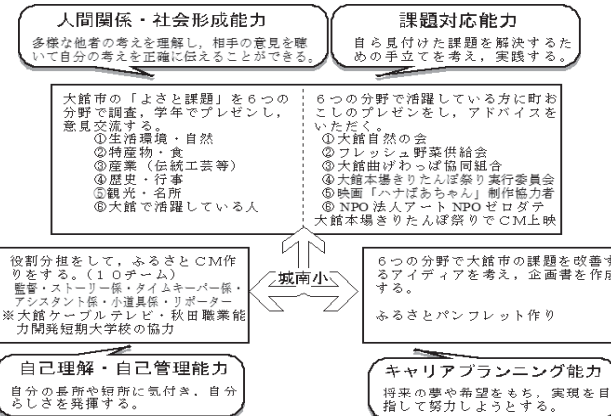
人間関係・社会形成能力の育成

課題対応能力の育成

○この後、学習発表会でも来校者にCMを見ていただいたりした。その後まとめとして、この単元を通して学んだこと、自分が成長したと感することなどを一人一人まとめ、全体で紹介し合った。

【単元で育てるキャリア能力→】

6年生の総合的な学習の時間 単元名「プロジェクトJ～作るう未来の大館～I・II」



3 プロジェクトJを終えての成果

- いろいろな人に自分の考えをアピールする力がついた。
- 神明社祭典などの行事に参加したり、子どもハローワークに参加したり（11月末現在で64人）と、積極的に地域にかかわる子どもが増えた。
- ふるさと大館を多面的にとらえ、多様な価値観を得ることができた。その結果、大館のよさに気づき未来の大館を真剣に考える素地を育てることができた。

4 おわりに

上記の成果は、子ども達のアンケートや保護者の声、先生方の感想をもとにまとめたものである。半年、40時間にわたるプロジェクトJの実践であるが、大館活性化のためのアイデアやCMの演出方法を話し合ったり、上映会でたくさんのお客さんに見ていただくための呼び込みをしたりする中で、子ども達は協力することや自らが行動を起こすことなどたくさん力を身に付けたと思う。「思いを行動に表す」「人とのかかわり」をキーワードに、これからは城南らしいふるさと・キャリア教育を進めていきたいと思う。